

セブンスデー・アドベンチスト教団

アドベンチスト

January



はらしゆく

1

## 「主を見上げよう」(詩編121篇)

東京中央教会牧師 板東 洋三郎

新年おめでとうございます。

多くの人の期待とは裏腹に、21世紀の第一章はまばらに点滅する明るい出来事にもかかわらず、世界を覆う不安の黒い雲が立ち込める場面となってしまいました。わたしたちは、それらの結果を日々じわじわと感じつつ生活することを余儀なくされています。しかし、それにも拘らず新年は、やはりおめでたいという不思議に現実的な感じをもたせられております。

ところで、今年はどんな年になるのでしょうか？ あえてこのような質問をする人、あるいはそれに答えようとする人は少なくなったようにさえ感じられます。わたしたちの身の回りを見る限り、楽観的な要素はあまり見つからないのが現実のようです。「わが助けは、どこから来るであろうか」と、思わずため息をつくような場面が、わたしたちの日常生活にも繰り返されるのかも知れません。

ダビデが詩篇121篇を作ったのは、彼が頼みとしていた預言者サムエルの死後、ねたみに狂うサウルの迫害の手を逃れて、パランの荒野をさまよっていたときだと言われています。そういう彼にとって未来は、確かさよりは不安要素のほうが多かったに違いありません。こんなとき、人の心は沈みがちです。身の周りのことで汲々としてしまいがちです。知らず知らずの間に自分中心、物質中心、人間中心になっています。彼は自問します、「わが助けは、どこから来るであろうか」と。

神はダビデに「目を高く上げなさい」と言われます。高い山よりももっともっと高く目を上げて天地を造ったわたしを見なさい、と

っしゃいます。彼は、自分が必要としている「助けは、天と地を造られた主から来る」ことを確信させられます。主ご自身が彼の羊飼いであり、「イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない」とはどういうことをよく知っていたからです。

砂漠での太陽の危険はだれでも想像ができませんが、月のそれは経験者しかわかりません。前者は明らかな危険であり、後者は隠れた危険を意味しています。しかし、神はそのいずれからも守って下さいます。「昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない……またあなたの命を守られる」と確信します。

ところで、わたしたちが「守られたい」と思うものは何でしょうか。健康？財産？仕事？地位？確かにそれらはそれなりに大切なものです。しかし、いずれにせよそれらは永遠には続かないものです。神さまが特に守って下さりたいことは「永遠」に関することです。「出ると入る」は、日常の生活や仕事であると同時に、屈辱的な捕囚を経験していた彼らには、連行されるとき悲しみと帰還する時の喜びをも意味します。こうした日常生活によって培われた創造主なる神にある信仰こそ、神さまが守って下さろうとするものです。

今私たちの前に始まった一年という新しい章も、日常生活の大小の悲喜交々で綴られることでしょう。しかし、それらを通じて、天と地を造られた主は、私たちの信仰が揺り動かされるのを決してお許しになりません。日々主を見上げつつ、信仰の歩みを力強く続けたいものです。

～ 芳賀さん、バプテスマおめでとう！ ～

## 「サイド・バイ・サイド」 至福の道へ

はが よう  
芳賀 洋

12月2日(日)の正午近くに、私は長野県の北端の野尻湖湖畔に黒衣を纏って立っていた。先に湖水の中へ腰の上まで進み入られた板東先生からのお呼びに応じて、私は冷たい湖に踏み入った。証人として棧橋から見守って下さる45人の方々が「イエス様のお招きに我行く」と歌う讃美歌271Bの流れるなか、赤、黄、白、青、桃色の花々が水面に散らされた。先生が天を指して祈られた後、私は水の中に沈められ、そして水面上に引き起こされた。横山絢子さんはじめ多くの方のお祈りによって、主が板東先生を導かれて実現した、野尻湖でのバプテスマの瞬間であった。

イエス様のご再臨のとき信仰を保った者皆が天で相まみえる希望の歌「サイド・バイ・サイド」に祝福されて、私は岸に戻った。このときを切望してきた妻敬子がうれし涙で迎えてくれた。湖を振り返って見ると、先生は皆さんにお勧めをされ、また祈っておられる。式の前の小雨が止み、南の空から一条の陽が射した。まさに聖霊様のご臨在を実感した。皆さんが大きな微笑で「おめでとう」と祝ってくださり、感謝と感激に満たされた。

思い起こせば、ここに至る道程は長かった。一昨年末に亡くなった父が所属していた日本基督教団柿ノ木坂教会に少年期から通っていた流れで、大学生のとき受洗したものの、信仰が育たぬまま歳月を過ごした。自己正義とプライドの故に、数々の試練を受けてきた。1996(平成8)年にここ中央教会の英語学校のバイブルクラスに導かれ、み言葉を学びバイブルキャンプに参加して、「神は愛なり」を実感できるようになった。そして、礼拝と安息日学校への出席を重ね、毎朝、妻と共にみ言葉をいただき、やっと、イエス様に全てを委ねることで平安を見いだした。

今改めて、イエス様の弟子として愛の戒めに従い、み言葉を伝える働きに加わりたく願っている。「あなた方の仕える者を、きょう、選びなさい」(ヨシュア記24:15)。イエス様のご忍耐に感謝しつつ御名を賛美します！



## 聖句と私

西山 靖子

弱い私を助けてくださった聖書のみことばを、ご紹介いたします。「マタイによる福音書」6章34節です。

**「あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。」**

毎日聖句を暗唱しているうちに、私は、それまでの悪い癖だった「取り越し苦勞」から解放されて、一日一日を力いっぱい生きていくことができるようになったように思います。感謝です。「今日」という日を大切に、充実した、後悔のない日々を過ごすことができ、聖書のみことばによって「価値ある時間」とは何かを知り、心豊かな生活を、ゆとりをもって一步一步あゆんでいけるとは、なんと素敵なことでしょう。

四人の子どもたちの成長を見守りながら、神様に生かされている。その喜びの中で、救ってくださる主とともにいられる日々を感謝いたしております。



## 出来たゾ！ 出来たワ！ 「折り紙サンタ」

12月8日「小羊クラブ」



あれは確か11月の第四安息日。午後、集会室では、子どもたちのとても楽しそうな笑い声と、歓声。ときたま大人の女性の「キャー」という、笑いを含んだ悲鳴も混じる。何事ならんと目をやると、今まさにゲームの真っ最中。子ども大人あわせて10人ほど、輪になってイスに座り、「帽子とタオルの手渡し追いかけリレーゲーム」とでも申しましょうか、帽子は一度かぶってから、タオルは首に一度巻いてから隣に渡す。それぞれ別にスタートしたのをリレーするうち両方とも同時に受け取らされた人が負け。スリル満点、何やらスタッフの皆さんも大いにお楽しみとお見受けしました。そう、「小羊クラブ」のほほえましい光景です。

さて12月第二安息日。今日はいかにと見てあれば、ピアノ近くのテーブルを囲んだ10人の子どもたちが折り紙に夢中。それを和服のご婦人が歩き回って、横から一人一人指導中です。ゲストリーダー、曾根田政子さんでした。やがて、「デキター」という声があちこちから。仕上がったのは、何と「サンタクロス」でした。色鮮やかな素敵なサンタさんに満足そうな顔、顔。

この日、もう一つのプログラムは、田村尚子さんの手袋人形「とらさん」、紙芝居「しろいいるがありました」、お話「くしゃみ」「もりのくまさん」に、言葉のリズム遊び。やがて名残惜しそうな子もいる中、廣野英子さんのお祈りで、今日はおしまいとなりました。

...さて4月から、学校は週5日制。「小羊クラブは『VBSの毎週版』になりますよ。もっともっと多くの子どもたちに参加してほしい。塾との競争とさえ思ってます！」とは、新設の「児童伝道委員会」のチーフ、田村さんの言。「どうぞご近所のお子さんを教会へお連れ下さい。」と仰せです。皆様、どうぞよろしく。

### 原宿彩彩

#### 東京中央教会のクリスマス

24日、TBSラジオの50周年記念の番組の中で、中央教会のクリスマスプログラムが紹介され、聖歌隊の賛美の歌声がラジオで生中継されました。その後、教会へ問い合わせも多く、教会に来てくださった2/3位の人達は新しい人達でした。聖歌隊、子供コワイヤー、ハンドベル、バイオリン、パイプオルガン、クリスマスのメッセージが終わった後、「感動で涙が流れました」「教会案内を下さい」「明日もやっていますか？」という照会がありました。聖歌隊の指揮者も涙をこらえていたそうです。「中央教会のクリスマスは伝道につながりますね」と花田牧師の目がキラリ。今回、教会へ足を運んで下さった方々が、教会にまた来てくださり、イエス・キリストと出会うことができますように祈っていきましょう。英語学校のクリスマスバンケット、子供クリスマス会、ピーハイブ・クリスマスライブも祝福され、多くの方々の心の中に神の愛の種がまかれたことでしょう。（武井今日子）

小春の空照り残りたる柿一つ  
患ひの師より楷書の賀状来る（保夫）  
初雀家族つらねて飛び立ちぬ  
初詣での梯子してをり京の旅（茂子）



## 牧師によるバイブル豆事典

### 「神との結婚」

イスラエルにおける結婚は創世記2:23～24に示されているように、理想的には一夫一婦制でした。それはまた、神とイスラエルとの契約の象徴でもありました。「わたしは永遠にあなたとちぎりを結ぶ。すなわち正義と、公平と、慈しみと、あわれみとをもってちぎりを結ぶ(ホセア2:19)」。しかし、イスラエルの歴史を見ると、民が他の神々に目を向ける姿は、まるで姦淫をする妻のようだと例えられています。夫、ホセアに愛されていながらも、姦淫を続ける妻ゴメル。ホセアのもとを離れたゴメルは遂に、奴隷として身を落としてしまいます。ホセアはその苦悩の中で、自分と同じように愛する者に裏切られて苦しむ神に気づいたのです。「行け、夫に愛されていながら姦淫する女を愛せよ。イスラエルの人々が他の神々に顔を向け、その干しぶどう菓子を愛しても、主がなお彼らを愛されるように(ホセア3:1)」。干しぶどう菓子はバアル神に捧げる供物でした。イスラエルが他の神々に走っても、神は彼らへの愛を捨てることがおできにならないのです。ホセアはこの神の愛に触れ、ゴメルを奴隷から買い戻し愛します。私達はこの愛の神との結婚の契約に与る者です。「わたしは神の熱情をもって、あなた方を熱愛している(第2コリント11:2)」。神は熱愛をもって私達を愛しておられます。神と私達との結婚関係は冷ややかなものではなく、とこしえに続く熱いものなのです。  
(東京中央教会副牧師 武井今日子)

## 1月のスケジュール

- 1 / 1 (火) 元旦礼拝 [説]板東洋三郎牧師 11:00～  
 / 5 (土) [説]板東洋三郎牧師  
 新長老、執事 按手式  
 長老会  
 / 12 (土) [説]花田憲彦副牧師 & 子供の話  
 役員会  
 小羊クラブ 14:00～  
 / 19 (土) [説]板東洋三郎牧師  
 讃美と証の会  
 理事会  
 / 26 (土) [説]板東洋三郎牧師 & 子供の話  
 小羊クラブ 14:00～

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

### エデン ED園だより

新年あけましておめでとうございます。21世紀の2年目を迎えましたが、皆様にとって今年がすばらしい年になりますよう心からお祈り致します。今年も編集の仕事をさせていただくことになりましたが、今年は、従来のメンバーに新たに2名が加わり、パワーアップ致します。今年のコミュニケーション部にどうぞご期待下さい。今年もどうぞよろしくお願い致します。(Y.M.)

〔お詫び〕 12月号第3ページ・俳句欄の最終行(解説の2行め)「昭和41年十月」を「今年十月」と訂正します。とくに、ご関係の方々には深くお詫び申し上げます。(YY)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 \* 発行人：板東洋三郎 \* 編集人：前中靖司  
 [住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517  
 \* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫